

憲法 9 条こそ東アジア平和の礎！

竹の台 島田

原水爆禁止 2025 年世界大会は 8 月 4 日～6 日の広島大会と 7 日～9 日の長崎大会に参加しました。「世界大会」の意味は、海外の平和団体が集り、核兵器廃絶に向けて、各国の状況と運動の進め方などを「3～4 日の国際会議」で論議し、内容を宣言としてまとめて、大会を進めるものです。この紙面では 8 月 8 日の長崎大会分科会「非核平和の日本とアジア」の内容を紹介し、広島大会の報告は「西神 9 条の会 HP」を参照してください。



(長崎世界大会会場 8/9)

韓国のキムさん (社会進歩連帯、政策教育局長)。韓国では広島・長崎への原爆によって、朝鮮が解放されたという潜在意識が強く、中国、ロシア、北朝鮮の核兵器への不安から「核武装要求 1000 万人署名」が取り組まれ、厳しい状況である。

米国のアンさん (平和のための退役軍人会、元陸軍大佐、元国防省官僚)。8 人の大統領に仕えたが、イラク戦争は欺瞞の戦争だとして辞めた。米軍は、中国への危機感を煽り、東アジアで軍事演習を毎日のように実施。その目的は米軍の兵器使用方法の伝授で、兵器輸出のため。

フィリピンのコラソンさん (非核フィリピン連合事務局長)。1992 年に米軍基地を撤廃したが、現在、米軍は 10 の基地が使用可能。南シナ海での中国の行動に恐怖感が植え付けられている。東アジアが平和だったのは、日本国の憲法 9 条のお陰。又、国連憲章、国際法があったから。

川田さん (日本原水協常任理事)。各国 (TAC 加盟国 42 か国) は ASEAN の「インド太平洋平和構想を支持する」と言いながら努力しない。合意したことを各国政府に迫り、国際連帯を強めることが大切。

○ニュージーランド 非核「神戸方式」を学んで 1987 年に核積載艦の入港を認めない法律を制定。ANZUS 協定 (豪、NZ、米の集团的軍事同盟) から除名。今は、英語圏のファイブアイズ (英、米、加、豪、NZ の軍事情報共有) に加入

TAC—東南アジア友好協力条約

○東京の麻布米軍ヘリ基地撤去実行委員会。六本木に在日米軍のヘリ基地があり、自衛隊統合作戦司令部の設置計画。騒音問題など、1967 年以來の基地撤廃の運動紹介。

(感想) 核兵器廃絶に向けての各国情勢は日本と同様、核抑止力論による核武装の動きが強まり、戦後の国際秩序の破壊が進行している。しかし、日本被団協のノーベル平和賞受賞は平和勢力への励みであり、被爆実相の継承を進め、核兵器禁止条約への批准や国連・国際法の順守を国際連帯の力で進めようとの意見、特に憲法 9 条が東アジア平和の礎だったとの発言と若い人の参加の多さとその発言にも励まされた。

- ◆ 9 月のつどい 9 月 14 日 (日)
「若者たちの情報提供は憲法違反！
自衛隊神戸住民訴訟が問いかけるもの」
講師 松山秀樹弁護士
西区文化センター 2 階第 1 会議室
14:00～16:00 参加費 300 円
※詳しくはチラシをご覧ください
- ◆ 10 月のつどい 10 月 26 日 (日)
「コープ電気/地域エネルギーを考える」
西区文化センター 2 階第 1 会議室
14:00～16:00 参加費 300 円

Act Now 1(イチ)の日行動にご参加を！

★毎月一回、西神中央駅前「改憲 No! 九条壊すな！」の アピール行動を続けています

★次回は 2025 年 10 月 1 日 (水) 16:00～17:00

日本の気候変動に想う

連日、体温越えの「危険な暑さ」が当り前になっています。さて、今年が気象庁発足150周年だそうですが、天気予報や災害速報など暮らしや公益に資する地道な活動には頭が下がります。その気象庁から5年ぶりに「日本の気候変動 2025」が公表されました。下記 URL or QRコードで、「概要版」がおすすめです。また、「地球温暖化と将来予測」、「気温」、「降水」、「海洋」の解説動画も分かりやすかったです。

<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/index.html>



QRコード

中でも僕自身、目から鱗だったのは・・・

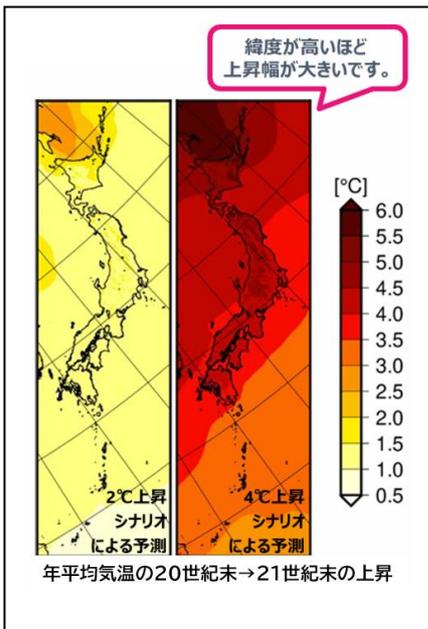
第1に、温暖化といっても、一様ではなく、高緯度ほど、冬季ほど、温暖化が速いという観測事実です。

第2に、大気中の水蒸気増によって、豪雨が増える一方、降水量全体は減少する傾向にあることです。

第3に、日本近海での海水温上昇は世界平均の2倍という事実です。海水の酸性化でCO₂を吸収してくれるサンゴや生態系への悪影響が懸念されます。

元気象研究所長の友人は、「10年前には地球温暖化が足踏みしている見方もあったが、この数年、世界的温度上昇が顕著になった」と嘆いています。地球温暖化に対しては、トランプや化石燃料の利害関係者等、今も懐疑論者が発言権をもっています。地球は複雑系なので、100%人為起因とは必ずしも決めつけられま

せん。しかし、分水嶺 (tipping point) を越えると、後戻りがきかなくなるのは確実です。地球温暖化はリスク・マネージメントという政治家の真価が試される地球的な課題と言えます。少なくとも戦争等につつつを抜かしている場合ではないのです。(竹の台 タイガー)



2025年9月 発行：西神ニュータウン9条の会

[HP] <http://www.ne.jp/asahi/seishin/9jyonokai>

[連絡先] TEL 090-3359-0776(大西)

8月のついで『学術会議』問題を考える

今年6月11日に強行成立された日本学術会議法人化法について、難しいテーマでしたが当会会員の本間健二さん（兵庫県立大学名誉教授）から分かりやすく話をさせていただきました。(参加26名)

また大西会長から「神戸大・学術会議法案と軍事研究」についての隠岐さや香さんの講演の要旨と「軍事化する社会」の報告も行われました。

最初に科学者が個人の政治的信条と無関係に愛国心や名誉などから積極的に戦争協力してしまうことがオープンハイマーなどを例に紹介され、『日本学術会議』が科学者が戦争協力をしてしまった過去の反省から、憲法、教育基本法に続く一連の流れの中で法制化されてきたこと。2006年に教育基本法が改定(愛国心教育や国の関与)され、今回学術会議法が改定、その流れの次に憲法改正があること。また、発足にあたり「我が国の平和的復興と人類の福祉増進のために貢献」(抜粋)と決意表明してきた学術会議が果たしてきた役割と政府干渉の歴史、会員の選考方法が公選制から「政府が行うのは形式的任命に過ぎない」とする推薦制に変更されてきた経緯、それを無視した5年前の菅首相による6名の任命拒否から法人化までの学術会議弱体化に向けた動きなど歴史的経緯が分かりやすく説明されました。

国立大学の法人化による大学自治崩壊の危機と合わせ、国の機関としての権威と独立性を失う学術会議の法人化は、◎科学の立場から時の政権に警鐘を鳴らす(勧告)ができなくなり、◎研究の出口志向が強まり、◎研究資金の軍事優遇など財政的不公平などで『学問の自由』の条件が崩され、今後、安全保障を理由とした研究の機密化なども危惧されることが報告されました。(ヒロシ)

ジョー句

お題「気配」

炎天下 つくつくぼうし 紛れてる (伝伝)

自由題

多様性 排除の先に じり貧待つ (空耳)

線香や あの公約も 立ち切れて (給付金)

10月のお題は「もしかして」

y-onishi@live.jp

に投稿お待ちしております。